

病害虫の  
見分け方  
シリーズ

## 重要なハダニ種の見分け方

—Panonychus 属と Tetranychus 属—

流通経済大学 経済学部 後藤 哲 雄

### はじめに

ハダニ科 (Tetranychidae) に属するダニをハダニ類と言う。ハダニ科はピラハダニ亜科 (Bryobiinae) とナミハダニ亜科 (Tetranychinae) に分けられ、世界で約 1,350 種、日本で 98 種が知られている (有本・島野, 2024)。ハダニ類の多くは広食性で、その中でもナミハダニ *Tetranychus urticae* は全世界に分布して 1,400 種以上の植物に寄生するスーパー害虫である (MIGEON and DORKELD, 2024)。ハダニ類では、ホモノハダニ *Petrobia latens* を除いて (兼田ら, 2012)、ウイルスなどの病原体を媒介することは知られていないので、吸汁加害が主要な被害である。ハダニ類の多くは高い増殖力を持ち (後藤, 2024 a)、一度発生すると被害は甚大になるので、早期に発見し、適切な防除を行うことが必須である。またハダニ類は種によって薬剤感受性レベルや効果的な薬剤が異なることもあるので、発生しているハダニ種を正確に同定することが望ましい。

本稿ではナミハダニ亜科のうち、マルハダニ属 *Panonychus* とナミハダニ属 *Tetranychus* の種への検索表を示すとともに、各属の重要な種を解説する。なお、読者はハダニ類であることを認識できていること、検鏡に必要な位相差顕微鏡または微分干渉顕微鏡を利用できること、それらの顕微鏡には挿入器の末端拡張部や胴背毛の長さを測定する装置 (自動計測装置など) が設置されているか、または接眼測微計 (図-1) をもっていることを前提として解説する。

### I 標本の作成

ハダニ類の同定では、スライド標本の作成がスタートになる。標本作成のためには、雌成虫と雄成虫を正確に識別する必要がある。しかし、体サイズが小さいアケハダニ属 *Eotetranychus* や体サイズが大きく見えるツメハダニ属 *Oligonychus* ではしばしば若虫を成虫と見間違えることがあるので注意が必要である。スライド標本にすると雌成虫の産卵管 (tube-like ovipositor) が産卵管のひだ (folded integument) として明瞭に見えるので、これを確認する (図-2)。雌の第 2 若虫には生殖口がないので、産卵管のひだは見えない。雄成虫は挿入器 (aedeagus) をもつが、雄の第 2 若虫にはないので、挿入器の存在を確認することで成虫かどうかを判断できる。



図-1 接眼測微計 (少し古いタイプ)

How to Identify the Japanese Important Spider Mites, Focusing on the Genera *Panonychus* and *Tetranychus*. By Tetsuo GOTOH  
(キーワード: ミカンハダニ, リンゴハダニ, ナミハダニ, カンザワハダニ, 位相差顕微鏡)